

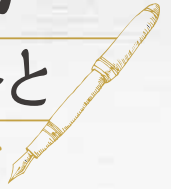
作品名「彼方より」

渋谷ヒカリエで開催された展覧会「MONSTER EXHIBITION2014」に招待されて描き下ろした作品。同展覧会は東日本大震災の被災地支援チャリティー展覧会で、一般公募で集められた多くの怪獣作品が展示されました。

とよなか

ゆめ・まち・ひと

リレーエッセー



懐かしき日々

かい だ ゆう じ
イラストレーター 開田 裕治

兵庫県出身。京都市立芸術大学卒業後、上京してイラストレーターとして独立。怪獣やロボットなどのキャラクターイラストを中心に、雑誌、単行本、プラモデルパッケージ、音楽ソフトの表紙やパッケージをはじめ、ポスター、カードゲームなど多数の作品を制作し、「怪獣絵師」の異名を持つ。近年では映画「キングコング：髑髏島の巨神」「レディ・プレイヤー1」などの国内版ポスターも手掛ける。



私が豊中市に住んでいたのは、昭和37年（1962）から昭和53年までの16年間なのですが、現在67歳となった時間感覚からすると、たった16年間だったのかと驚かされるほど長い時間を過ごしていた気がします。

家族4人で尼崎市から豊中市の庄内西町に引っ越したのが小学3年生の時でした。両親は「きわ」という屋号のお好み焼き屋を経営し、住居は店舗の2階。いつでもお好み焼きや焼きそばが食べ放題の環境で、中学卒業の頃には、後にダイエットで苦労させられる立派な体形に育ってしまいました。近くには高校や大学があり、学校帰りの学生さんが鉄板を囲んだりしていました。「あなた」が大ヒットしていた高校時代の小坂明子さんのお姿を見たこともありましたが、引っ越してきた当時の庄内の街は高度経済成長の真っただ中で、町内にまだ残っていた田んぼが次々と埋め立てられてアパートが林立し、人口過密地帯としてNHKの番組で紹介されるほど急速に高密度宅地化が進んでいました。とはいえ通っていた野田小学校の廊下の窓から

は田んぼが見渡せて、時折シラスギの姿なども見ることができると、のどかだったのですが。

私が小学生から中学生を過ごした昭和後期は、映画館では毎年の夏休みとお正月に怪獣映画の大作が公開されるといって、怪獣ブームが隆盛を極めた時代でもありました。映画から起こったブームは、既に日本中の家庭に普及していたテレビにも及び、円谷プロダクションの「ウルトラQ」をはじめとする、ウルトラシリーズがスタートしました。当時の男子はほぼ全員がこのシリーズに夢中で、放送翌日の月曜日は教室で「昨日の怪獣すごかったな！」と話題沸騰していましたね。

中学は市立第六中学校。生徒数が多くて、私を含む一部の生徒は、隣の小学校の老朽化して使われなくなっていた校舎を間借りして授業を受けていました。教室の、ちょうど教壇上の天井が古びて垂れ下がり、授業中に抜け落ちて先生の頭を直撃するのではないかとワクワク、もとい、ハラハラしていた思い出があります。

中学を卒業する頃になると怪

獣を語り合う仲間も少なくなり、高校入学と同時に入学した美術部での油絵制作に没頭するようになりました。高校は市外の千里高校でしたが、3年生の時に高校のすぐ隣で始まった日本万国博覧会には14回も通うほど熱中しましたね。

1年浪人して京都の美術大学に入学しましたが、通学は家からの通いでした。大学時代に知り合った東京の怪獣映画ファンたちと交流を深め、その縁が卒業後に東京に移ってイラストレーターとしてデビューするきっかけとなりました。その時の怪獣ファンたちの交流や活動が、平成29年（2017）になってテレビドラマ「怪獣倶楽部〜空想特撮青春記〜」のモデルになったのには驚きました。当時の私に教えたなら

「そんなバカな事がある訳ない」と一笑に付されるでしょうね。

それ以来、40数年にわたりイラストレーターとして東京での生活を続けてい

ますが、今でも年に一度は大阪に戻って母と妹夫婦の家に顔を出しています。残念ながら豊中の実家は引き払ってしまいました。が、あの懐かしい庄内のまちなみがどうなっているのかなど、時折インターネットの地図情報サービスでまち並みをのぞいてみたりしています。まち並みどころか南北を縦断する大きな道路ができていたりして、あまりの変わりように驚かされます。実家だった建物はかろうじてまだ残っていて、多少改装はされていますが、小さなわが家の佇まいを見ていると半世紀の時間を一気に飛び越え、家族と過ごした当時の思い出や、怪獣に熱中した日々を思い出し、心が満たされます。

一言コーナー

Q「彼方より」はどのような

イメージで描かれたのですか？

A 2013年に東日本大震災の被災地である宮城県石巻市を訪問した時の印象を基に、描き下ろしました